写真ニュース

2011 Summer NO.39

埼玉県のマスコット コバトン

発行:埼玉県生活協同組合連合会
〒330-0064
さいたま市浦和区岸町7-11-5
TEL:048-844-8971
URL http://saitama.kenren-coop.jp

6/23

埼玉県生協連第40回通常総会

組合員の期待に応え、協同組合として価値や役割の一層の発揮を

はじめに、来賓の県民生活部消費生活課の上原課長、JA埼玉県中央会の大塚常務、埼玉県地域婦人会連合会の柿沼会長よりごあいさつをいただきました。次に、伊藤会長理事より来年は県生協連の40周年や国際協同組合年の節目の年になることを紹介し、第1号から第6号議案までの提案が行われました。議案討議後、全ての議案が承認されました。

5/28

JAとの協同組合間提携
埼玉県産米交流会「体験田植え」

田んぼの水や泥の冷たさを感じながら親子で楽しく田植え体験

小雨が降る中の13回目となる交流会に、2生協等から21家族70人が参加。田んぼに一列に並び、糸に沿って手際よく苗を植えました。田 植え後は、泥んこになった手足を洗い、お米の豆知識のクイズラリー、県産米のおにぎりやお味噌汁とつきたてのお餅を試食、試食後にはバケツ稲の説明、餅つき体験等が行われました。

5/21

核兵器のない世界を子どもたちのために
吉永小百合原爆詞朗読と映画(夏少女)のつどい

静寂さの中、凛とした祈るような朗読 一人ひとりの心に平和への願い刻まれ

子どもたちと一緒に「折り鶴」を合唱する吉永さん

川口総合文化センターリリア メインホールにて、平和・市民5団体(※)共催による吉永小百合原爆詞朗読と映画(夏少女)のつどいが開催され1,800人を超える参加者がつどいました。はじめに、広島で被爆し被爆者治療をしてこられた肥田舜太郎さんが、核の影響による被害が二度と起こらないようにしていきたいとあいさつされました。次の被爆者と被爆の証言を聞いた高校生のリレートークでは、感想や想いそして出来ること等が話されました。

※平和・市民5団体:「埼玉県原爆被害者協会」「埼玉県地域婦人会連合会」「埼玉県生活協同組合連合会」「原水爆禁止埼玉県協議会」「埼玉県平和運動センター」

主催者を代表して、肥田舜太郎さんがあいさつ

被爆者の証言を聞いた高校生のリレートーク

吉永小百合さんは、原発問題にも触れながら、原爆詩の朗読は1986年から核兵器が無くなる日までできることをしたいと25年間続けてきましたと紹介されました。朗読は、物音1つしない静まり返った中で、峠三吉の「父をかえせ母をかえせ」の「序」から始まりました。

2012国際協同組合年埼玉実行委員会の発足式と記念講演会

協同組合の価値と役割について学びました

5/25

埼玉会館小ホールにて約330人が参加して行われました。発足式では、代表のJA中央会江原会長と伊藤県生協連会長理事、上田埼玉県知事があいさつされました。記念講演は、講師に内橋克人氏(経済評論家、2012国際協同組合年全国実行委員会代表)を迎え、「協同組合がよりよい社会を築くために」をテーマに、「協同の精神」「共生社会」「協同組合の役割」「TPP問題」などを話されました。

6/2

埼玉県消費者団体交流会委託事業
第1回県内消費者団体交流会

消費者団体の役割を学ぶとともにグループ交流で元気とパワーを充電

講師の池本誠司弁護士

市町村くらしの会や消費者団体等の24団体82人が参加しました。「消費者市民社会と消費者団体の役割」と題したミニ学習会後、6グループに分かれ各団体の日頃の活動や元気な理由、悩みなど楽しくなごやかに情報交換、その後グループ別に発表が行われました。

6/27

埼玉県生協ネットワーク協議会
スキルアップ応援講座

安心してくらせる社会をめざし「協同」「地域」「コミュニティー」を考えました

68人参加

講師に後藤健二氏を迎え、「世界が平和に向かうために〜ジャーナリストの目を通して〜」をテーマに学習しました。被災地や難民キャンプでコミュニティーやネットワークが形成されることは生協の考え方と重なること、また、世界各地での取材を通し、社会の状況・慣習・自然災害等によって大きな影響を受け問題や苦しみの中で暮らす子どもたちの話から平和について考えました。

広がる県内生協の多彩な活動

さいたまコープ

ふれあい喫茶

子どものあそびのひろば

旧騎西高校で、炊き出しや「子どものあそびのひろば」や「ふれあい喫茶」が開催されました

福島県双葉町の皆さんが避難されている旧騎西高校では、組合員や職員などのボランティア「避難所応援隊」とJAグループさいたまが協同して、毎週木曜日に味噌汁等の温かい汁物の炊き出しや「おやこひろば」を開催しています。6月12日(日)には、お昼の炊き出しの他、地域・他団体の皆さんも協力いただき「子どものあそびのひろば」でのフットサル等に約60人が参加。ミニコープ大間店(鴻巣市)で毎月「ふれあい喫茶」を開催している組合員のくらぶ「かたつむり」の皆さんがギター等の演奏や、アコーディオンと歌声等で、ゲストの皆さんに楽しんでいただきました。

生協パルシステム埼玉

わくわく農園 開園式

6月5日、深谷市の沃土会でわくわく農園の開園式を行いました。わくわく農園は、組合員がパルシステムの産直産地・沃土会の生産者の指導のもと、土作りから種まき、収穫、そして食べ方提案まで含めた農作業体験をする企画です。沃土会の理念である「土は命であり、食も命である」を組合員に伝える親子農業体験の場として開園しました。開園式後の植え付けでは毎年参加している先輩組合員が初めての参加者に、作業の方法を教えるなど、組合員同士の交流も活発に行われていました。

沃土会の矢内会長(右)が丁寧に指導

生活クラブ生協

初日の全体会の会場風景

第4分科会での実演の様子

シャボン玉フォーラムを埼玉で開催しました

5月21･22日に、生活クラブ生協･埼玉が受入団体となって「シャボン玉フォーラム」(主催：協同組合石けん運動連絡会)が開催されました。今年は「明日(みらい)のいのちのために」をテーマに、初日の全体会は森千里･千葉大学大学院医学研究院教授と池川明･池川クリニック院長の基調講演、2日目には7つの分科会が行われました。参加人数は両日で延べ936名で特に若い子育て世代の参加が多かったのが今回のフォーラムの特徴でした。

医療生協さいたま

津波で流されたカルテを回収
〜カルテは患者さんの治療の歴史 1冊でも多く回収したい！〜

6月11日(土)、東日本大震災の津波により流された長町病院(宮城県仙台市)のカルテ庫にあったカルテやレントゲン写真の回収ボランティアに参加しました。組合員・職員総勢47人が、カルテ庫のあった海岸から約2kmの場所で、約3時間、回収作業を行いました。カルテ・レントゲン写真・診察券などは、津波に流された様々なものと一緒に泥に埋っている状態でした。回収量は全部で4トントラック1台分になりました。

津波で流されたビニールハウスの骨組みの中からも回収

回収したカルテなどを積み込んだ4トントラック

この紙は再生紙を使用しています　PRINTED WITH SOY INK　印刷は環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

子どものその保育生協

朝取りソラマメの皮むきのお手伝いで野菜好きに

子どものその朝の光景です。給食で食べるソラマメを子どもたちが一生懸命むいています。夏になると、近所の農家から朝もぎのトウモロコシや枝豆が直接届き、子どもたちが皮をむいたり、豆をとったりして準備します。みんなで「お手伝い」していると、野菜嫌いの子も「たべてみようかな」という気分になります。幼児にとって、食欲と意欲は、切っても切れない関係です。「食べること」も子どものその保育の大事な中身です。

コープネット事業連合

生産者応援イベントを開催

5月14日、東京国際フォーラム(東京・有楽町)で「日本を、食卓から元気にしたい。生産者応援のつどい〜支えあい、ともに乗りこえよう！〜」を開催しました。この催しは、放射能問題の影響を受けている生産者を応援するため、コープネットエリア8都県JA連絡会と東京都が共催したもので、茨城県・千葉県などの農産物のほか、福島県の農産物や牛乳などを販売しました。試食会やもちつき、クイズ大会など、生産者との交流イベントも行い、約5000人の来場者でにぎわいました。

埼玉大学生協

組合員の声を直接、品揃え、メニュー開発に活かす！

2010年度より組合員利用者懇談会を定期的に開催しています。ペンケース中味拝見企画では、使用している筆記具と気に入っている点をお互いに出し合い、文具売場の品揃えをチェックし、不足しているものを発見しました。食堂メニューでは、埼玉大名物メニューを作ろうとのアイディアが出され、埼大丼開発プロジェクトに発展。埼大丼は、今や10人に1人は必ず選ぶヒットメニューになりました。大学生協東京事業連合より文具・食品の商品担当の方も参加し6月に第1回目の懇談会を開催しました。

大東文化学園生協

大学との食育の一環協力事業〜朝食提供〜

生協食堂では食育の一環として昨年より朝食提供を開始しました。この朝食は大学との協力事業となり、大学の補助により学生は200円で朝食セットが食べられます。朝食メニューは食育の一環であることから、あえて軽食は準備せず「ごはん＋味噌汁＋主菜＋副菜」のセットとしました。しっかりと朝食を食べて1時間目の授業に向かう学生が増えています。さらに朝食の話題作りと部活動支援という位置づけで、学内団体による朝食コンサートも行っています。